

# 令和4年度 静岡県交付金整備計画等の評価に係る第三者意見取りまとめ

## 事後評価対象への意見

番号	整備計画名	第三者意見	対応
1	市街地における通学路の交通安全プログラムに基づく交通安全施設整備	(山田アドバイザー) 子供の命を守るということで非常に重要性の高い事業である。本計画としては、目標値以上の成果ということで高く評価できるが、本整備計画の中でまだ半分以上の危険箇所が残っているので、早期に対応していくことが重要である。	早期の整備完了に向け、予算を要望し事業を推進していく。
		(山田アドバイザー) 本整備計画の危険箇所が解消されるまでは、危険を回避するためのソフト対策（周知徹底や見守り人の配置など）を合わせて行うとよい。	御意見を踏まえ、関係市町とソフト対応の実施について検討していく。
		(山田アドバイザー) 完成した区間のモニタリングを実施し、ヒヤリハットなどの状況を把握しフォローしていくことが重要。	御意見を踏まえ、事業完了後のモニタリング調査の実施について検討していく。
		(日詰アドバイザー) 整備された箇所のモニタリングを引き続きお願いしたい。	御意見を踏まえ、事業完了後のモニタリング調査の実施について検討していく。
		(大久保アドバイザー) 明るさについての点検も重要と考える。夕方に通学路を歩く児童について、暗い道を歩くのは危険であると考えられることから、照度の調査も実施するのが望ましい。	御意見を踏まえ、今後、通学路の合同点検等を実施する際に留意する。
6	ふじのくに静岡県の道路構造物（橋梁・トンネル等）の適確な維持管理の推進（防災・安全）	(大久保アドバイザー) 構造物の塗装色の選定に際し、同じルート上の多色使いは避けたほうが良い。	塗替塗装を行う際は、引き続き景観形成に必要な検討を行い、周辺状況を確認の上、実施していく。
		(山田アドバイザー) 建設年次が古い施設、崩落の危険性の高い施設等から点検するなど、点検を実施する優先順位の付け方とその精度向上が重要。	これまでに実施した点検の結果を踏まえ、点検時期の精査を図り、引き続き、施設の変状等の早期発見や予防保全に努めていく。
		(山田アドバイザー) 施設の損傷把握や修繕の優先順位付けの精度向上のため、ICT、DXなどの高度化した技術（新技術）を活用することも重要である。建設業界以外の分野も強化し、新たなメンテナンス産業を創出していくことが重要である。	御意見を踏まえ、従来の機器による点検が困難な場合等において、ICTなどの新技術等の活用を図っていく。
9	静岡県における流域下水道による汚水処理の推進（防災・安全） 第2期	(山田アドバイザー) 計画期間中の点検調査を踏まえて改築更新の対象施設数を見直したならば、見直し後の目標値を用いて指標の達成状況を算出してはどうか。	御意見を踏まえ、見直し後の目標値を用いた達成状況についても併記する。
		(山田アドバイザー) 省エネ機器を導入していることについて、もっとPRすべき。	省エネ機器の導入により送風に係る電力量を約10%低減したため、追記する。
		(大久保アドバイザー) 汚泥を100%再利用できているということ、もっとPRすべき。	御意見を踏まえ、浄化センターでの見学会などを活用して、汚泥再利用100%の取組みについて広報に取組む。